

授業科目名	赤十字救護・援助法			担当教員	池尻 朋文	
開講年次	1 年前期	セメスター	1		時間数(単位数)	30 (1)
必修選択	必修	授業形態	演習		使用教室	
授業の目的	具体的な救急法の知識、技術を習得し、災害・事故防止の思想と互いに助け合うボランティアの精神を理解し、行動する能力を獲得する。					
到達目標	1. 赤十字の事業を理解できる。 2. 一次救命処置に関する知識と技術を習得できる。 3. 応急手当に関する知識と技術を習得できる。 4. グループで役割を把握し協力して活動することができる。					
ディプロマポリシーにおける科目の位置づけ	この科目は、人道の精神に基づき国際的に発展させてきた赤十字の救急法を習得し、看護職としていかなる時も人間の生命の尊重と擁護、チームで協力することを考え行動できる力を養うものである。					
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力	
	◎		○			
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)		取組時間	担当者
1	【赤十字救急法基礎講習】 赤十字救急法について（救急法を実践する際の心得など）、手当の基本、観察の基本	講義・ 演習 (GW)	日本赤十字社が救急法を普及する目的、救急法の基本的な知識と技術及び赤十字の行う事業について予習する。		60 分	池尻
2	一次救命処置（BLS）（心肺蘇生法） （実技）	演習 （実技）	一次救命処置（BLS）の手順を予習する。参考文献に記載したインターネット動画【日本赤十字社】一次救命処置(BLS)～心肺蘇生とAED～を見る。		60 分	池尻
3	一次救命処置（BLS）（AEDを用いた除細動、気道異物除去） （実技） 実技検定、学科検定	講義・ 演習 （実技）	一次救命処置（BLS）（AEDを用いた除細動、気道異物除去）の手順について、動画で予習する。		60 分	池尻
4	【赤十字救急法講習】 赤十字救急法救急員について、急病について	講義	赤十字救急法救急員を養成する目的、期待する意識、能力及び行動、日常生活の中で緊急度や頻度の高い病気の症状について予習・復習する。		60 分	池尻
5	けがについて	講義	外傷・骨折に対する適切な手当てについて予習・復習する。		60 分	池尻
6	きずの手当について	講義	きずに対する手当の方法について予習・復習する。		60 分	池尻
7	止血の仕方、三角巾の使い方 （実技）	演習 （実技）	正しい方法で、確実に止血ができるように予習・復習する。 参考文献に記載した赤十字 WEB CROSS- 電子講習室 - を見る。		60 分	池尻

8	止血の仕方、三角巾の使い方（実技）	演習（実技）	正しい方法で、確実に止血ができるように、動画で予習・復習する。	60 分	池尻
9	骨折の手当	講義	骨折に対する手当について予習する。	60 分	池尻
10	搬送、救護	演習（実技）	搬送は傷病の手当と同様に重要であること、また、災害時の対応について日本赤十字社の災害救護と防災ボランティアについて理解し、積極的に参加していく必要性を復習する。	60 分	池尻
11	骨折の手当（実技）	演習（実技）	骨折に対する手当の方法について、動画で予習・復習する。	60 分	池尻
12	搬送、救護（実技）	演習（実技）	基本的な実技を身につけ、状況に応じた搬送ができるよう動画で予習する。	60 分	池尻
13	救護（総合実技）	演習（実技）	急法で身につけた基本的な実技を総合的に活用し、災害時などに適切な手当を実践することの大切さを総合実技の場面設定を通して体験し、実技後に振り返りを行う	60 分	池尻
14	きず、骨折の手当（実技・復習）	演習（実技）	正しい方法で、確実に止血や応急手当ができるよう講習を通して復習する。	60 分	池尻
15	実技検定、学科検定 検定のフィードバック	講義	講習で学んだ学科・実技の振り返りを行うことにより、講習の目的をより深く理解し、現場において確実に実践できるよう予習・復習を行う。	60 分	池尻
先行履修科目					
テキスト		日本赤十字社 編：赤十字救急法基礎講習教本、株式会社 日赤サービス 日本赤十字社 編：赤十字救急法講習教本、株式会社 日赤サービス ※その他、『救急救材セット』等が必要である。			
参考文献		http://www.jrc.or.jp/activity/study/safety/ http://www.tokyo.jrc.or.jp/application/webcross/			
評価方法		学科試験 50%・実技試験 50%			
教員等の実務経験		赤十字救急法の指導者であり、県内外の講習会で講師として豊富な経験をもち、かつ災害救護活動の経験もある日本赤十字社の支部職員が担当する。			
メッセージ					